

幸四郎の幻影、  
紅葉に舞う

雀宮公園、秘められた歌舞伎遺産

寄居の未来をデザイン！  
学生が描く「まちの未来ビジョン」

観光アプリ  
風雲 Yotte GO!  
Yori-Ca プレゼントキャンペーン

あッLookは、寄居町が発行するまちなか情報紙  
情報紙です。寄居を歩き、町を見て、皆さ  
んのお気に入りを見つけてください。

雀宮の秋、紅に染まる。

No.

～観光・まち歩きアプリ～

# 風雲 Yotte GO! 謎解き寄居町 △ 鉢形城攻防戦 △

## 戦国の名城・鉢形城

鉢形城は戦国時代、北条氏邦が関東支配の要として築いた城です。荒川と深沢川に挟まれた天然の要害で、関東随一の規模を誇っていました。天正18（1590）年の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、豊臣方の大軍に包囲されながらも1カ月に及ぶ籠城戦を繰り広げたことで知られています。現在は国指定史跡となり、城跡公園や歴史館が整備されています。

## 360度復元CGで往時を再現

鉢形城跡では、スマートフォンをかざすと戦国期の城郭が360度CGで復元します。かつての城門や曲輪が目の前に立ち現れ、臨場感あふれる映像で歴史を追体験できます。ナレーションは元NHKアナウンサーの松平定知さんが担当し、臨場感を高めてくれます。



## 謎解きやスタンプラリーでまち歩き

アプリの目玉機能は、町中に設置されたAR宝箱を探し出す「謎解き宝探し」。また町内20カ所を巡るデジタルスタンプラリーも搭載し、観光と散策をゲーム感覚で楽しめるようになっています。



## 籠城戦ゲームや武将との撮影も

迫り来る豊臣方の兵を撃退する「籠城戦ゲーム」や北条氏邦や真田昌幸、本多忠勝といったARで出現する戦国武将と記念撮影できる機能も実装しています。史実に基づいた人物や出来事を楽しみながら学べるよう工夫されています。



## 歴史館との連携、多言語対応

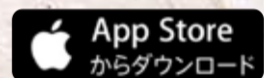
鉢形城歴史館の展示解説と連動し、音声で案内する機能も備えています。日本語のほか英語、中国語、韓国語にも対応。外国人の方も楽しめます。

## 寄居町来訪時にアプリのダウンロードはいかが

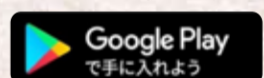
戦国の舞台となった寄居をARデジタル技術を通じて、楽しんでください。

アプリのダウンロードは  
こちらから

iPhoneをお使いの方



Androidをお使いの方



## 観光アプリYotteGO！ 秋のYori-Ca（ヨリカ）

# プレゼント キャンペーン！

観光アプリ「風雲Yotte GO！謎解き寄居町～鉢形城攻防戦～」内に出現する武将が出題するクイズに正解した方に寄居町地域通貨Yori-Ca（ヨリカ）1,000ポイントをプレゼントします。寄居町内に点在する8人の武将の内、4人以上の武将クイズに正解し、アンケートに回答いただくことでヨリカポイントを獲得できます。

### 【ポイント付与期間】

令和8年1月31日(土)まで  
400人（先着順）

### 【ポイント利用期間】

令和8年2月28日(土)まで

### 【受付場所・時間】

- ・役場 4階プロモーション戦略課  
(受付時間：平日のみ午前9時～午後5時)
- ・寄居駅南口駅前拠点施設Yotteco  
(受付時間：11/2(日)、12/6(土)、1/31(土)のみ午前9時～午後5時)

### 【ポイント付与方法】

受付場所でYotte GO！を開き、クイズ成績画面を提示していただき、備え付けのコードからアンケートにお答えください。アンケートの回答が確認できた方にヨリカ1,000ポイントをプレゼントします。なお、ポイントはスマートフォンアプリ「chiica（チーカ）」にのみ付与します。  
※磁気カードおよび紙カードには対応していません。

# Yori-Ca 1000 ポイント プレゼント！



# 幸四郎の幻影、紅葉に舞う

## ～雀宮公園、秘められた歌舞伎遺産～

荒川の清流がゆったりと流れ、風光明媚な景勝地として古くから文化人を魅了してきたこの地に、雀宮公園があります。約1万平方メートルの広大な敷地に広がるこの公園は、明治・昭和を代表する歌舞伎の名優、七代目松本幸四郎の別邸「武州寄居町雀亭」の跡地を整備したもので、寄居駅、玉淀駅から徒歩圏内で、近年、“隠れた紅葉の名所”として知られています。

### 幸四郎が息づく歴史あるまち

幸四郎が愛した玉淀の溪谷美は、京都の保津川を思わせるほどの風情を湛え、四季折々の景色が訪れる者を迎えます。特に秋の紅葉シーズンには、園内が鮮やかな紅に染まり、ライトアップされた幻想的な光景が、まるで舞台の幕開けのように人々を魅了します。寄居町は、歴史の深淵と自然の恵みが交錯する場所。江戸時代から宿場町として栄え、荒川の恵みを受けた豊かな土地柄が、今日の観光資源を育んできました。

雀宮公園はその象徴として、幸四郎の足跡を今に伝えるだけでなく、町の活性化の原動力となり、明治の激動期に生まれた幸四郎の人生が、この静かな公園に息づいています。

### 名優の軌跡

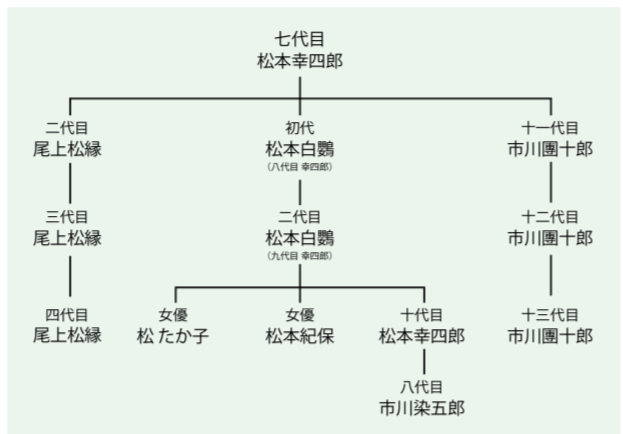
#### ～七代目松本幸四郎、 溪流に魅せられて～

1870年（明治3年）、三重県の小さな村で生まれた藤間金太郎（後の七代目松本幸四郎）は、幼少期から芸の道を歩み始めました。4歳で上京し、駄菓子屋を営む母のもとで育ったといわれています。11歳で市川團十郎の門下生となり、厳しい修業の末、1881年（明治14年）に初舞台を踏み、1911年（明治44年）に七代目松本幸四郎を襲名。恵まれた容姿と堂々たる演技で、時代物や荒事を得意とし、特に『勧進帳』の武蔵坊弁慶役では生涯1600回以上を演じ、不朽の名演として語り継がれています。

幸四郎の人生に、寄居町が深く刻まれたのは昭和初期のこと。自伝『松のみどり』（1937年刊）で、彼はこう記しています。

ん。七代目幸四郎の人生が息づく場所。荒川のせせらぎに耳を澄ませば、遠い歌舞伎の調べが聞こえてくるかもしれません。

歴史のロマンと自然の美が融合したこの地を、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。紅葉の季節に、幸四郎の幻影を追いかけて。きっと、皆さんの心に、新しい「離」の境地が訪れることでしょう。



### 雀宮の再生

#### ～歴史遺産から

#### 観光の宝石へ～

幸四郎の時代から約100年。いつしか、この跡地は忘れ去られ、園内も草木が茂り、荒れた状態が続いていました。しかし、この歴史的にも、文化的にも貴重な資源を再生させるため、町民の声もあり町は敷地を取得しました。

埼玉県との連携で、県指定名勝・

### 永遠の誘惑

#### ～歴史と自然が融合した庭～

雀宮公園は、単なる紅葉の名所ではありません

「私は山の景色が好きですが、就中溪流が大好きで（中略）秩父の長瀬と寄居の間七里の溪流が保津川に劣らぬところだといふことを聞いて行ってみました。そして大いに気に入ったので（中略）別荘を建てたので御座います」

荒川の清流と玉淀の溪谷に京都の風情を見出した幸四郎は、荒川沿いに別邸「武州寄居町雀亭」を構え、度々この地を訪れました。雀亭は、幸四郎の静かなる憩いの場であり、歌舞伎の華やかな世界とは対照的な、自然と対話する場所であったのでしょうか。1949年（昭和24年）、80歳で没するまで、彼の心に寄居の風景は深く根を張っていたことでしょう。

十一代目市川團十郎や初代松本白鸚（八代目幸四郎）を経て、十代目松本幸四郎に至る血脈は、雀宮公園に新たな息吹を吹き込んでいます。

十代目幸四郎の座右の銘「守破離」。一師の教えを守り（守）、それを破り発展させ（破）、ついに独自の境地に至る（離）。一が、園内の石碑に刻まれているのは、そんな系譜の証でもあります。





# 寄居の未来をデザイン！

## 学生が描く「まちの新ビジョン」

(**TDU 東京電機大学** +  **東京理科大学**) ×  **寄居町**



### 歩き、調べ、創る

プロジェクトは春からスタート。学生たちは寄居のまちなかを歩き、まちの「息づかい」を体感してきました。空き店舗の写真撮影、住民ヒアリング、交通量のカウントなど、地道な調査を積み重ね、スケッチブックを片手にアイデアを膨らませ、模型やパース図を作成。建築の専門知識を生かしつつ、町の「ストーリー」を重視したデザインが提案されました。四季折々の寄居を体感した学生たちは、「歩くたびに新しい発見があり、デザインの幅が広がった」と振り返ります。このプロセスは、単なる調査ではなく、学生と町民の絆を深める貴重な時間にもなりました。


### 「種まき」から実りへ

今回の提案は、あくまで「種まき」ではありますが、学生たちの情熱が寄居のまちづくりに一石を投じるものとなりました。今後、地元との対話を通じて実を結ぶ可能性は十分にあります。町としても、このような学生との関わりを深め、継続することで関係人口を増やし、まちづくりに生かしていきます。発表会で使用された魅力的な模型は、10月24日から31日まで寄居町役場1階ロビーで展示され、多くの方に“寄居の未来像”を見ていただくことができました。

また、各グループの提案等は、「寄居まちづくりNOTE」でご覧いただけます。成果を通じて寄居の未来を想像してみてください。学生との連携が寄居の未来を変えるきっかけとなるはずです。



寄居まちづくりNOTE



河崎充紘さん  
(長野県出身)

村上秋暉さん  
(東京都出身)

石井琢夢さん  
(東京都出身)

大山ななみさん  
(埼玉県出身)

**東京電機大学 グループB**

**寄って酔って**

—お酒ネットワークで町がつながるファイナリー—

**寄居町の「お酒」を町の顔に押し出すため、醸造・提供・体験を核としたファイナリーを構想。チャレンジショップやLAB機能を複合し、地域連携で活性化を図る。**

～プレゼンテーションから～

寄居町のファイナリー「寄って酔って」は、町内のぶどう園と連携してワインを製造・販売。缶ワインを YORIBA、Yotteco、SPARK などの施設で販売し、山・川・公園で楽しむことができるよう「持ち出し飲酒」を促進します。また、周辺の飲食店がワイナリー産のワインを提供する代わりに、飲食店の情報を発信し、訪問者を「事後酒」へ誘導するサイクルを構築します。これにより、夜の飲食店の利用を後押し、さらに、ワイン産業への関心を就農につなげ、将来的にはブドウ園の担い手増加を図ります。

設計の中心は二つの“土間”。生産者の“土間”がぶどう仕込み・醸造・瓶詰めの効率的な作業動線を確保し、利用者の“土間”がまちに開かれた交流スペースとして機能。町内の飲食店等を宿泊所に転用し、道路に接続することで、人々の視線と行動が交差する動的空間を生み出します。昼は学生・研究者の発酵実験や見学の学びの場、夜は住民・学生の成果の共有と交流の場へシフトし、木造主体で宿場町のスケールを現代的に再解釈しました。このワイナリーは、地域の生産と交流を象徴する新たな風景を生み、寄居町をお酒のネットワークでつなぐハブとなります。

### 交通の要衝、歴史ある寄居のポテンシャル

寄居町は、かつて街道筋の物流拠点として栄えた歴史ある町です。現在も、寄居駅に3路線が集まる交通の要衝として、さらなる中心市街地の活性化が町の発展の鍵を握っています。学生たちは、このポテンシャルを生かし、町の路地を歩き、地元商店街のお年寄りや若者へのインタビューを実施。空き家や緑地の活用、コミュニティのつながりをキーワードに、架空ながらも、現実味あふれる提案をまとめ上げました。

8チームがそれぞれの視点で、寄居の問題点を捉え、未来像を描き、成果として発表。こうした具体策は、寄居駅周辺を対象にした現地調査を基に練り上げられ、町の「隠れたストーリー」を引き立てるものとなりました。

これにより、寄居が単なる通過点ではなく、魅力あふれる滞在型のまちへと進化する可能性を鮮明に示してくれました。



### 「隠れた魅力」を未来へ

「まちを歩くことで、寄居の『隠れた魅力』が見えた。学生の視点で、町民の皆さんがワクワクする未来をデザインしたい」と参加者の一人。発表会では、8つのグループが、それぞれのテーマでプレゼンテーションを行い、活発な質疑応答が繰り広げられました。提案は現実の制約を超えた創造的なものではありませんが、寄居の未来を語るきっかけになるはず。学生たちは「このプロジェクトを通じて、寄居がもっと愛される町になることを願っています」と口をそろえました。ある学生は「初めての寄居で感じた温かみと、住民の方の率直な声がインスピレーションになりました。プロジェクトを通じて、町の息づかいを形にできたのがうれしかったです」と語ってくれました。

また、町関係者からの具体的な質問にも、明確なビジョンを持って回答し、官学連携の成果を実感させる一幕も見られました。

# AUTUMN FOLIAGE ILLUMINATION

## 雀宮公園紅葉ライトアップ ～彩り～

### イベント

**もみじ市**  
(寄居町商工会・㈱まちづくり寄居共催)  
**11月28日(金) 限定**  
キッチンカーとテント出店

**竹灯りづくりワークショップ**  
竹の灯籠が幻想的な空間を演出  
**11月29日(土)**  
**10:00～15:00**  
参加費 1,000円/人



**プロジェクションマッピング**  
**11月29日(土)**  
**12月 6日(土)**  
**18:30～19:30**  
光の芸術で紅葉に「動き」を演出



日時/11月28日(金)、29日(土)、  
12月 5日(金)、 6 日(土)  
各日 16:00～20:00  
(入場無料・雨天中止)  
場所/雀宮公園 (寄居町大字寄居643番地1)

# PHOTOGRAPHY CONTEST

## 雀宮公園 フォトコンテスト2025



町では雀宮公園の魅力をもっとPRするため、Instagramで  
フォトコンテストを開催します。ぜひご応募ください。  
期間/11月20日(木)～12月10日(水)  
テーマ/ 錦秋  
賞品/ 寄居町ふるさと納税記念品を進呈します。  
金賞… 1点 (寄附額 3万円の記念品から選択)  
銀賞… 2点 (寄附額 1万円の記念品から選択)

### アクセス

#### 電車の場合



電 車/東武東上線、秩父鉄道、JR八高線「寄居駅」から徒歩約15分  
東武東上線「玉淀駅」から徒歩約10分  
自動車/関越自動車道 花園I.Cから約15分

#### 自動車の場合

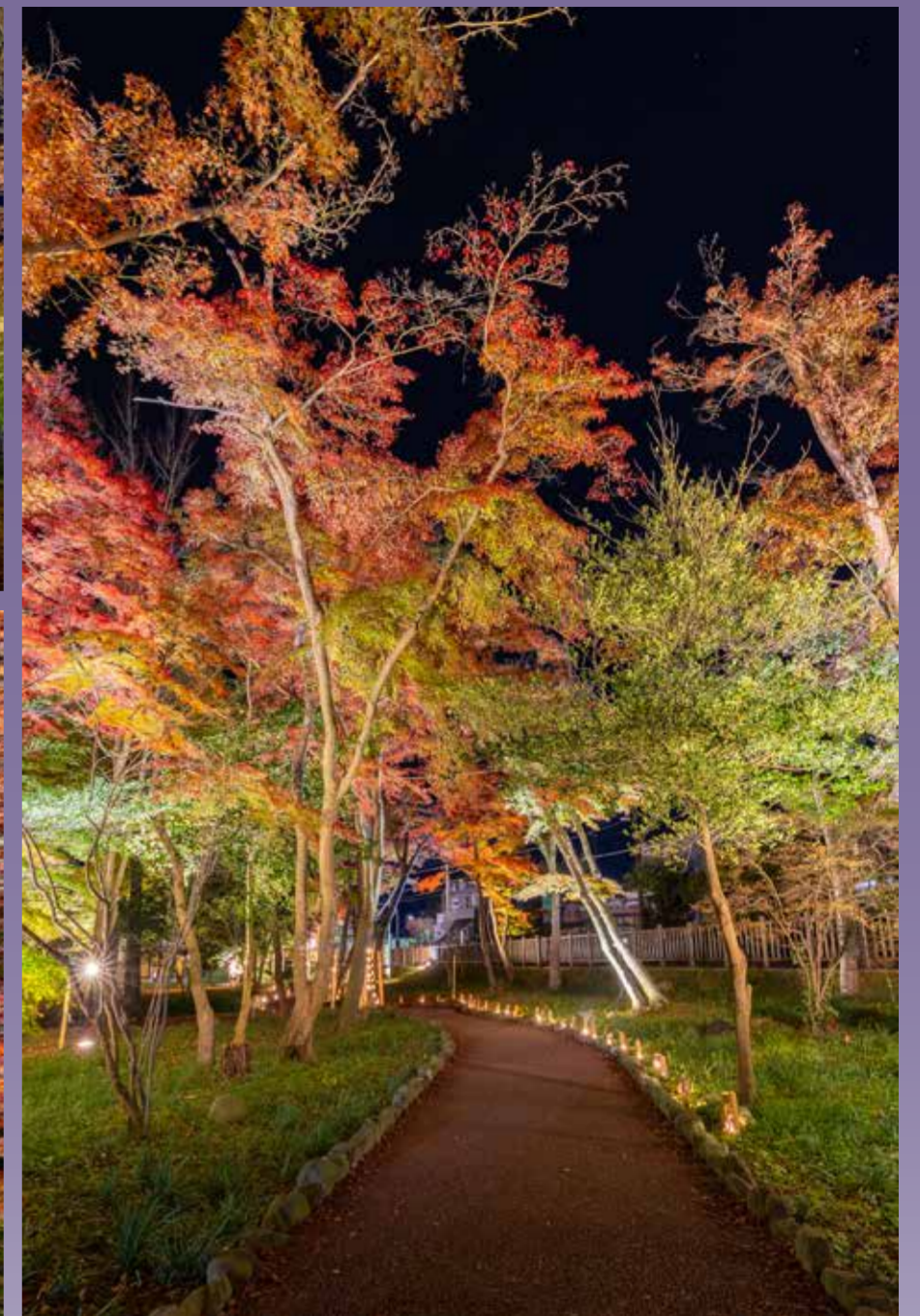


photo by Yuji Shibasaki

## 雀宮公園紅葉ライトアップ2025

### ～光が紡ぐ彩りの夜～

雀宮公園は紅葉の時期がベストシーズンとなります。秋風にそよぐ園内の木々が真っ赤に染まる頃、訪れる観光客は一年で最高潮を迎えます。落葉が地面を優しく覆い、足元を絨毯のように彩る光景は、心を奪われるほどの美しさです。園内は紅く染め上がり、夜には光の魔法が加わります。例年ライトアップ時には、数千人の来場者を迎え、静かな公園が一夜限りの舞台と化し、柔らかな光が枝葉を優しく照らし、影絵のような神秘的なシルエットを浮かび上がらせます。まさに、幸四郎の弁慶が繰り広げたような、力強くも優美な光景。それは、過去と現在が交差する「守破離」的一幕でもあります。古き風情を守りつつ、新しい感動を。光が紡ぐ彩りの世界をお楽しみください。